

屋中だより

～屋中は今～

令和3年4月9日 No.2

千曲市立屋代中学校

学校長 北沢 芳洋

(文責) 田中 章子

<http://www.chikuma-ngn.ed.jp/~yashirojh/>

*「屋中だより」は、屋代中学校ホームページでご覧いただけます。(千曲市教育委員会⇒小中学校一覧⇒屋代中学校)

一学期のはじまりにあたって

始業式、1年生から3年生が顔をそろえて新しい生活のスタートを切りました。

今日からこの学び舎で過ごす一年生や職員に向けて、拍手が何度も贈られました。在校生の皆さんの温かい思いが感じられる素敵な始業式でした。

令和3年度 1学期始業式 校長講話

新入生や新たな先生方との出会い、友との再会があり、学校の新年度が開始されました。次の三点を伝えます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症で臨時休業になりました。今後も先行きが不透明で、予測困難な状況が発生し、今まで経験のない困難を乗り越える必要があります。君たちは自ら学び、正しい知識と理解、情報をもとに自分で考え、先を見通して「今、何をすべきか」を考えることが大切になります。目標や志を高く、未来に向けて学び続けていきましょう。

二つ目は、学校のおよさや意義は、友人や他者と共に歩むことにあります。休業中などの分断と制限の経験から、人と共に生活できることや人の心の温かさの尊さを強く感じるようになったと思います。自分から相手に積極的にコミュニケーションをとり、温かい心を表現したり、行動や形にしたりすることを今まで以上に大切にしてほしい。互いに支え合う「愛情・やさしさ・思いやり」を伝えることを意図的に行っていきましょう。

三つめは各学年に贈る言葉です。1年生は「学校の宝」、2年生は、「学校の柱」、3年生は「学校の顔」です。1年生はこれからの屋代中学校を引き継いでゆく本校の大切な宝物です。入学時の目標や志を大切に学び続けて行ってほしいと思います。2学年は1年生の先輩として暖かく接し、3年生の活動を支える柱です。やがて3年生から引き継ぐ日に向け、力を高めてください。3年生は屋代中学校の顔です。皆さんの姿そのものが、この屋代中学校の目指す姿や誇りであり、屋代中学校がどんな学校であるかを示すものです。全校生徒の大きな成長を期待しています。また、各自の今年の目標達成に向け努力を続けていきましょう。

(校長 北沢 芳洋)

始業式 意見発表

二年生で頑張りたいこと

2年4組 佐藤 胡桃

私は二年生で頑張りたいことが二つあります。一つ目は勉強です。私は英語が苦手です。特に文法が難しいと思っています。なぜなら、日本語の文法でさえ難しいのに英語は単語を覚えなければならない上に、日本語と違う語順になるからです。そのため、まず単語を覚えるために提出ノートの内容を充実させていきたいです。また、文法についてはワークを解くだけでなくノートにまとめたり、教科書を音読したりして工夫しながら学習していきたいです。

二つ目は、部活動のハンドボールでもっと上手になることです。私は積極性とシュートフォームに課題があります。考えてみると、私はシュートフォームが悪いので正確性と球威がなくシュートが入らな

いことから積極的にシュートにいきません。そのため、シュートフォームを改善できるように一球一球を大切に投げるようにしていきたいです。また今年度は二年生となり一年生が部活に入ってきます。二年生である自分が手本となる先輩にならなければなりません。そのためにもこれまでの先輩を見習って、後輩たちが頼れる選手になっていきたいです。

今年度は、勉強と部活動に力を入れ、さらに自分が成長できるようにしていきたいです。

伝えることができる人に

3年5組 神戸 優翔

僕が昨年度一年間で一番思い出に残っているのは、三月に行った東北研修旅行です。例年ならば、この四月に京都・奈良に行く予定でしたが、コロナウイルスの影響や東日本大震災から十年の節目の年ということなどから、今回は東北地方に行くことになりました。

研修旅行では、主に南三陸町、石巻市、松島町を訪れました。見学をする中で、僕が印象に残ったことは実際に震災と津波を経験した語り部の方のお話です。旅行に行く前にも学習をしていましたが、その場所で震災を体験したご本人から話を聞くことにより、被災した日にそこで何が起きていたのかということが、すごくよくわかり、印象に強く残りました。

そして、その中でも、特に心に残ったのは石巻市の大川小学校の見学です。大川小学校は十年前の震災で全児童の七割に当たる七十四名の子どもが、亡くなったり、今もまだ行方不明になったりしています。その場所で、当時小学六年生の娘さんを亡くした佐藤敏郎さんからお話を聞き、あの日までの大川小学校のことや、あの日からの大川小学校のこと、そして、これからの未来のことを詳しく知ることができました。

佐藤さんは「今では『あの大川小学校』と言われているけれど、それまでは、大川小は特別でも何でもなかった。そして、災害とはそういう特別でも何でもなかった場所にふりかかる。」ということをお話してくれました。

だからこそ、僕たち自身もいつ、どこにくるかかわからない災害に対して、きちんと備えていなければなりません。長野県に津波はこないけれど、もし、何らかの災害が起きれば、きっとパニックになって行動ができなくなってしまうと思います。大切なのは、「その時にどうするか」ではなく、「その時まで何をしておくのか」ということだと思いました。日頃からこのことを頭のどこかに入れておきながら、これからも生活をしようと思います。

また、研修旅行から帰ってきて、家族や祖父母にも聞いてきた話をたくさんしました。みんな真剣に話を聞いてくれたし、何よりも自分自身がこんなにたくさんのお話を聞いて、いろんな話ができることにびっくりしました。きっと自分が思っている以上に旅行で感じたことが大きかったのだと思います。

僕は、この「伝える」ということもがんばっていきたくて思っています。今回の研修旅行のことは生活ノートに書いてきた内容を先生が学活の中でみんなに紹介してくれました。「聞いてきたことを他の人に伝えていくことが研修旅行の本当の意味」という話を先生がしてくれて、なるほどと思ったし、自分がしたことを認めてもらえて、とても嬉しかったです。

今回の作文発表も最初は全校の前で話すのは恥ずかしい気持ちがあった、やってみようか迷っていたのですが、「自分から変わりたい」という気持ちが強く、立候補することができました。これからも研修旅行で感じたことや日頃から自分が思っていること、考えたことを多くの人に伝えられる人になっていきたいです。

今年は三年生で受験生にもなり、勉強も今までより大変になると思いますが、自分の将来のために頑張っていきたいです。また、部活動も最近は少しずつ試合に出られるようになってきました。コロナのために練習試合などは限られていますが、夏の大会に向けて、しっかりと自分ができる準備をしていきたいです。勉強、部活動、そして、「自分から伝えること」をがんばり、充実した一年間にしたいです。

【連絡事項】

朝夕の送迎につきましては、安全のため、学校入り口の駐車場にて乗降してください。ご協力よろしくお願いいたします。